



第314号

発行

浄土真宗
心光寺

奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086) 420-1311



カット：
本多 紘子

自分探しの旅



桃の節句となり、娘さんのいらっしやる御家庭ではお雛様を飾られてお祝いをなされる時節ですが、皆様お元気ででしょうか。今年は例年より一ヶ月遅れて二月に入ってからインフルエンザが全国で爆発的に流行し、高校や大学受験生を抱えている親御様は心配なことです。

岡山県の冬は三寒四温と昔から言っていて、三日寒い日が続くこと四日暖かい日が続いていました。でも、今年の冬の気温は変ですね。午前中は穏やかな晴れで暖かかったのに、午後からは急に冷たい風と雪がぱらついて冷え込み、セーターを脱いだり着たりと体温を調節するのに大変な日が続きました。地球温暖化の影響だとしたら恐いですね。

三月は春のお彼岸の季節です。最近では若者だけでなく、お年寄りも寺離れをしているのか、お寺に真剣にお参りする人が少なくなりました。山間部では限界集落と言って若者が都市で生活をするために、お年寄りの方が山林や田畑を管理していますが、お年寄りが病気になるとう都会の施設や病院に入って亡くなり、山間部にあった家も山林も田畑も放置され荒れ放題となり、近所の人が消えて、山間部では生活が出来なくなりました。山間部にあったお寺もだんだんと廃業し、雪の重みでお寺が潰れるのは、大切な日本の心が潰れるようで悲しいな。

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

愚僧のお寺でも、自分自身の人生を深く見つめて貰うために春・秋の法要では講師を招いて仏教講演をしていただいています。講演を聞かずにお帰りになる方が増え、寂しい限りです。生の意味も、死の意味も知ろうとしないで、闇から生まれ、また闇に帰っていくとしたら、人間に生まれてきた甲斐がないとも言えます。フランスの有名な画家ポール・ゴーギャンの代表作に、「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか」という題名の絵があるように、これは人間の永遠の問いです。私たちはなぜ日本人としてこの世に生まれ、なぜ生きるのか：その答えを真剣に考えることが、あなたがあなたらしく、人間らしさを失わずに、精一杯生きることになるのです。利己的で、損得だけで生きる自分を恥じようよ。

日本経済のバブル崩壊後、格差社会が広がり、勝ち組と負け組というような言葉が流行り、生活保護を受給する人が増えたり、若者の就職活動が上手いかならない閉塞した期間が長く続きました。そんな日本の後を追うようにお隣の国の韓国でも経済が失速し、若者の雇用状況が悪化の一途をたどっています。学校で過酷な競争を強いられた挙げ句、行き着くのは非正規の仕事。恋愛、結婚、出産を放棄せざるを得ない「3放世代」という言葉も生まれています。「若者は努力が足りない。もつと努力しろ」と裕福な大人達が説教じみた言葉で非難するが、企業の現状を個人の問題にすり替えられる若者は救われない。

仏教の言葉に「世の中が良くなるのも悪くなるのも、すべて人による。人の生き方を決めるのは道を求める心である」とあります。人の心ほど大事なものは無い。人の心が地球の環境を良くしたり、悪くしたりするのである。つまらない見栄や欲、他人への嫉妬や苛立ちこそが人の絆を壊し、争いを生み、自分や周りを傷つけるのです。大人達が自分の都合や目先の欲に囚われず、個性が強すぎて世の習慣に上手く合わせられない若者や、生き方がこじれ孤立する若者たちを、温かく真剣に見守る力を仏教から学ぼう。

合掌 (奥原 曇龍)

『何処から来何処へ行くのか尋ねよう 仏道歩むは自分探しの旅』どんりゅう

ともしび説法

日時・三月 九日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
四月十七日「日曜日」 午前十時半から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高 426 新本堂
電話 086-420-1311



カット：
奥原 唯



法然上人ものがたり(63)

法然上人は、中国の唐時代に活躍した善導大師(六一三―六八二)の『往生礼讃』と慈恩寺窺基(六三二―六八二)の『西方要訣』をもとに、専修念仏者の生活の心得をとかれています。

善導大師の教えは『二河白道』の喩えのように、真実の世界に憧れ浄土に向かって歩む者は、名譽欲や財産欲や色欲・グルメ食という自己中心欲の我が身の煩惱とか、悪友や異教徒の言葉で自己の信念や行動が歪められることのないよう、これを群がる盗賊や悪獣に喩えて、阿彌陀仏の本願という白い一筋の道を真っ直ぐに歩めと説いています。

人生には幾多の艱難辛苦が潮のように押し寄せ、進むべきか、止まるべきか、引き返すべきか、悩むときがある。そのときは虚心になつて素直(至誠心)に、阿彌陀仏にまかせた心で正しい人の勧めにまかせ(深心)、脇目もふらず(廻向発願心)、前進すれば必ず道は切り開けるといふ教えます。

また、慈恩寺窺基の念仏者のとるべき心得を恭敬修・無余修・無間修・長時修に分けて説いています。『西方要訣』の文を引き、極楽浄土での仏・法・僧の三宝に、常に心をかけて尊び重んじるのを恭敬修といひ、これには①阿彌陀仏や菩薩達を敬うこと、②浄土の教えに縁の深い仏像や経典を敬うこと、③浄土の教えにゆかりの深い学問や徳の高い人を敬うこと、④同じ道を歩む友を敬うこと、⑤仏法僧の三宝を敬うこと、とあります。

無余修は、常に念仏して浄土に往生したいといつも思いをかけること。無間修は、他の仏や神を礼拝せず、毎日阿彌陀仏を礼拝し、お念仏を称えること。長時修は、志してから悟りを得るまで、常に後戻りすることなく長期間勤めることを言います。

法然上人の念仏者の生きる心得は、相当に厳しい心得だったので。合掌(奥原曇龍)

旅立ちの夢と不安の卒業式 親子が巣立つ節句のともしび 田辺多恵子



中原さん一族とどんりゅう師

ともしび法話

三月は卒業式とお彼岸の月です。別れは寂しいけれど新たな出逢いが待っています。希望に燃えて前に進みたいものです。長女は大学3年、弟は大学一年、次女が高校2年ですが、四月からは長女の就職活動や次女の受験活動と大変になります。自分らしく力一杯、歩んで欲しいな。

心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

境内の碎石を除去して自動車が通りやすいように、重さ80kgの敷石三百枚を井川八郎さん、私、曇龍住職の三人で並べました。お彼岸や四月の春の永代経では駐車するのに便利になり、皆様こそつて心光寺にお参り下さい。倉敷市西阿知 松下智海

ともしび新聞、心のこもった「ともしび説法」と、いつも楽しみにお参りさせていただきます。今年もお寺や皆様に少しでもお役に立ちたいと思っています。

『二河白道』の喩えの絵が欲しいな。布で作って、皆に見て貰い、人生を共に深く考えたいです。茶屋町 河野 和江

ともしび説法

日時・三月 九日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
四月十七日「日曜日」 午前十時半から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り
(宗派をとわず、まじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

〇ともしび説法・お寺の行事予定
四月 十七日(日)・午前十時半から午後四時頃・春の永代経。
午前・ハンドベル・親父バンド・パンフルート演奏 午後・法要。
五月 十一日(水)・午後一時から午後四時頃・早高の本堂。
☆『ともしび』を平成18―20年、平成21―23年、平成24―26年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となつて、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返ることが出来ます。まとめた本が欲しい方は実費でお分け致します。

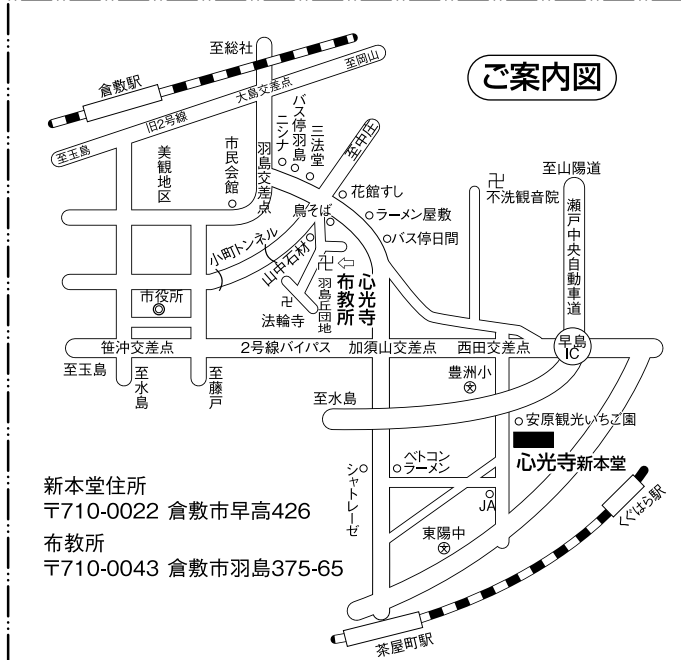


春の詩

春はゆつくりやってきた
朝の小鳥のさえずりを喜び
桃の花の一輪を愛おしむ
午後 突然の春の嵐
何もかも吹き飛ばされて
怒りと悲しみと寂しさつる
こうして人は成長する



カット:吉岡美枝



浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしょうにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらうより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「314号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法の日には茶屋町駅に12時35分頃、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡下さい。 合掌 総代長 三村健